

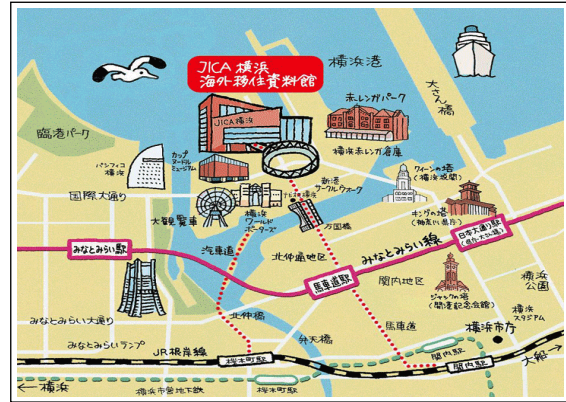
国際協力の現場を語る

JICA(ジャイカ:国際協力機構)は開発途上国の発展を支援するため、実務の経験と知識を持ったシニア(40歳~69歳)を途上国に「シニア海外ボランティア」として派遣しています。この人達はシニアならではの、海外旅行などでの体験とは違った貴重な体験をしています。そんな話題も含めて体験を語って頂きます。

日時:毎月第3水曜日 15時30分~17時
 会場:JICA横浜 1階会議室または4階セミナールームなど
 会費:無料(どなたでも自由に参加出来ます)
 主催:NPO「シニアボランティア経験を活かす会」
 後援:JICA横浜

(やむを得ず日時・会場が変更される場合があります。事前にシニアボランティア経験を活かす会ホームページまたは下記問い合わせ先に確認して下さい。台風等により中止となった場合は、中止された発表講演は翌月の第1水曜日の15:30~17:00に延期します。)

問合せ先:横浜市中区新港2-3-1 JICA横浜3階 国際協力連絡室内
 シニアボランティア経験を活かす会 水曜日
 Fax:045-663-3263 担当:森岡 潔(046-849-9938)
 URL jicasvob.com E-mail info@jicasvob.com



赴任国(講師名)	「タイトル」	講演概要
第139回 3月15日 (水) ネパール (中川路のぞみ)		「びっくりを楽しみながら」 シニアボランティア活動は、私にとって初めての海外生活だった。職業訓練校を管理するコンピュータシステムを開発するという活動内容のみならず、生活面でも、常識が通用しないカルチャーショックに何度も打ちのめされながらも、ネパール人の明るさと大らかさに助けられ、楽しく過ごすことができた。この活動と、その中で学んだこと、そして帰国後日本で行っている国際協力についてお伝えします。
第140回 4月19日 (水) サモア (田中誠一)		「パラダイスへの援助」 日本製のフィアガディーゼル発電所は着任した前年2013年6月に運開した。ほぼ10か月毎にオーバーホールをする必要があり、日本のメーカーとの連絡調整をおこなった。さらにサモア唯一の重力ダムの悪臭発生(硫化水素)の問題について調査研究と悪臭防止装置の公開入札の技術資料の作成、公開入札の実施を行った。さらに急速に導入が進む太陽光発電の従来設備への影響調査と助言を行った。
第141回 5月17日 (水) アルゼンチン (井坂敏之)		「アルゼンチン ロサリオ市の防災・災害対策」 長さ世界第8位、流域面積世界第4位の大河パラナ河(ラプラタ河の上流)に面するロサリオ市の防災・災害対策を市民防災部等の人達と検討した。被害予想地域の認識共有後、新たな視点で、意識改革に繋がる提言をした。貧困地域の不法で粗末な住居等の改善策が必要である。スペイン語ができない点を克服し、市民防災部の素晴らしい点も指摘し自信を付与できた。
第142回 6月21日 (水) ボツワナ (加治正光)		「ボツワナ警察行政の改善」 私は警視庁で約34年間勤務し、事件対応や防犯指導、新しい法律や技術導入、不祥事事件への反省と対策、勤務環境の変化、待遇改善等いろいろな警察事象を経験し、これをいつかどこかで活かせればと思っていました。機会があってJICAシニア海外ボランティアとしてボツワナ警察に赴任し、いくつかの改善提言をしました。どのような改善提言をしたのかについてお話したいと思います。
第143回 7月19日 (水) パラグアイ (広内俊夫)		「パラグアイに見る「新たな日系社会の創造」の息吹」 近年、パラグアイは「南米の秘宝」と言われ、経済発展の著しい国です。この発展に貢献した日系社会は、2016年日本人移住80周年を迎えました。私は同年8月~11月、パラグアイを10年振りに訪問。変貌を遂げるパラグアイと日系社会を見て回り、二世、三世による新たな日系社会の創造の息吹を目の当たりにしました。躍進するパラグアイについての最新情報、併せて、国家形成と移民の役割などをお話したいと思います。